



研究だより 第46号

第103回
教育研究発表会
を終えて



自ら伸び続ける子供の育成（2年次） ～個に応じて、「さ・ぬ・き力」を育てる環境づくり～

ごあいさつ

校長 坂井 聡
副校長 やぶうち まさあき
藪内 雅昭

仲春の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、本校では令和5年1月27日に第103回教育研究発表会を開催いたしました。コロナ禍のため、授業会場ごとの参会者数については制限を設けましたが、県内外から約700名の皆様をお迎えし、成功裏に終えることができました。

私たちは非認知能力に焦点を当て、子供が自ら伸び続けるために必要な力を「さ・ぬ・き力」とし、それらを育てるための研究を進めてきました。授業討議では、目指す子供の姿を基にしながら、どのような場の設定や価値付けが有効であるかについて話し合い、多くの貴重なご意見をいただきました。さらなる子供の成長を願い、地域のモデルとなるような授業を創っていこうと全教職員で決意を新たにしているところです。

講演をいただきました文部科学省の白井俊先生、懇切なるご指導ご助言をいただきました指導者及び香川大学教育学部の先生方、ご後援をいただきました香川県教育委員会、各市町教育委員会、関係団体、また、運営にご協力いただいた保護者、学生及び関係各位に対して、心より御礼申し上げます。

研究の概要

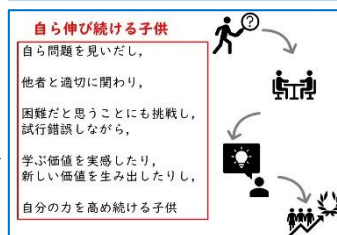
自ら伸び続ける子供の育成（2年次） ～個に応じて、「さ・ぬ・き力」を育てる環境づくり～

1. 自ら伸び続ける子供の姿

ユニセフによる子供の幸福度調査によれば、日本の子供たちは、身体的健康度は38か国中1位ですが、精神的幸福度は37位と大変低い結果となっています。また、全国学力・学習状況調査では、「課題の解決に自分から取り組む」「失敗を恐れないで挑戦する」といった項目において香川県及び本校の子供たちは肯定的回答率が低いという結果です。本校では、これらの状況を踏まえるとともに、これまでの研究成果を基にして、より主体的に学び、他者と協働しながら、意欲的に自己を高め続ける子供を育成したいと考えました。

社会の動向や、子供の現状、これまでの研究を基に、課題解決の流れに沿って目指す子供の姿を考え、「自ら伸び続ける子供」と定義しました。

この姿は、委員会活動やクラブ活動など、各教科の授業以外の場面においても見られると考えています。



2. 「さ・ぬ・き力」とは

上記のような子供を育てるため、私たちは非認知能力に着目しました。

非認知能力とは、漢字の書き取りや計算などと違い、点数にして測定することが難しい力であり、例えば、コミュニケーション力、共感性、粘り強さ、忍耐力、自尊感情、社交性など多様です。これらの力がこれからの社会を生き抜く子供たちに必要だとされ、社会的にもその重要性が注目されています。

私たちは、目指す子供の姿を実現するために必要な力を、右図のように三つに選定しました。相手の立場に立って他者と協働できる力が「さっする力」、目標の達成に向けて粘り強く取り組む力が「ぬり替える力」、感情をコントロールし、自信をもって前向きに取り組む力が「きもちを整える力」です。この三つの力は学校生活の様々な場面で発揮される力であり、子供自身の力で学校生活を豊かにするためにも必要になる力だと考えています。「さ・ぬ・き力」の発揮を繰り返していくことで、「自ら伸び続ける子供」に育っていき、さらにはより大きな目標である、人生における自己実現に向けて成長し続けることができると考えています。

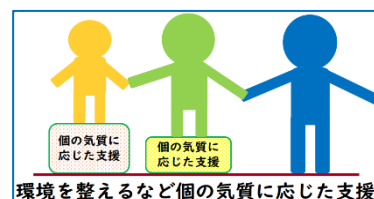


環境づくりの際には、学習活動を見通し、行動、振り返りの三つの場面に分けて捉え、「さ・ぬ・き力」を発揮しやすくなるよう場面ごとに働きかけを行います。また、「さ・ぬ・き力」を発揮したことと、そのよさに気付かせるために、価値付けを行うことで、子供たちが「さ・ぬ・き力」を発揮することのよさを感じ、ほかの場面でも自ら発揮しようとする意欲を高めていくと考えています。実際の授業においては、例えば、目標の達成に向けて粘り強く取り組む力である「ぬ力」を発揮することで、少し困難な課題に対しても、試行錯誤を繰り返しながら粘り強く取り組むなどの姿が見られると考えました。



3. 個に応じるとは

「さ・ぬ・き力」を発揮する際には、子供それぞれの気質が関わることが考えられるため、気質に配慮して指導や支援を行っていくことが大切になります。それには、ユニバーサルデザイン (UD) の支援が有効であると考えています。さらに、学級全体への働きかけだけでなく、気質に応じて、個別に支援することが必要な場合もあります。



2年国語科 「おすすめの遊びの魅力を紹介しよう」

学習指導者 岡根 平

学級みんなに「お楽しみ会でやってみたい」と思ってもらえるような遊びの紹介をしたいと考えた子供たちは、遊びの魅力としてどんなことを伝えればよいかを考えてきました。本時では、前時に捉えた、遊びの魅力を紹介する順序と、それぞれの順序の効果に基づき、自分たちの遊びの魅力をどの順序で伝えればよいか、複数の順序を比較しながら選んでいきました。

自分の遊びの魅力を紹介する順序を考えよう

見通し【計画確認タイム】



本単元のゴールとこれまでの学習の成果を振り返り、成功体験を想起させたことで、「今日、魅力を紹介する順序を考えたら、自分の紹介がもっとよくなりそう」と課題解決の価値を感じていました。

行動【紹介作戦ボード・タイム】



簡単に順序を入れ替えることができる教具を用いたことで、全パターンを比較しながら自分が一番よいと思う順序を選べました。また、友達と交流する時間を設けたことで、順序を再考する姿が見られました。

振り返り【あなたもわたしもいいねタイム】



共に活動した友達と、示された三つの観点を基に、互いの学び方のよさについて伝え合った後、自分で振り返るという手順にしたことで、本時の自分の頑張りを客観的に捉えていました。

授業討議での ご意見・ご指導

○順序を容易に並び替えて比較できたことで、自分なりの思いをもって、話す順序を選択できていた。ICT機器と紙媒体のどちらを使うか選べるようになっていたことで、一人一人が学びやすい環境が保障されていた。
▲遊びの魅力伝える相手を工夫すれば、より相手を意識して順序を試行錯誤したのではないか。実際に、相手に伝わり方を確認しながら吟味する場を設けることで、構成を工夫するよさにより目を向けられたのではないか。

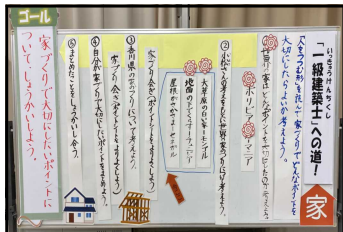
3年国語科 「家造りで大切にしたいことを紹介しよう ～『人をつつむ形―世界の家めぐり』～」

学習指導者 小出 早織

『人をつつむ形』を読み、自分が家を作る際に大切にしたいポイントについてクラスの友達に紹介するために、筆者の説明の観点を基に整理してきました。本時では、セネガルの家が大切にしていることを見つけた後、筆者の説明の観点を基に自分の家造りのポイントを見直し、友達と話し合いながら、必要に応じてポイントを増やし、自分の考えをより納得いくものにしていきました。

セネガルの家造りのポイントを見つけて、家造りポイントシートをよりよくしよう

見通し【一級建築士への道】



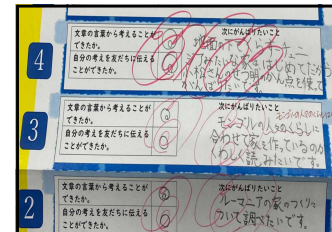
単元のゴールと学習計画を示した補助黒板を基に、課題設定の理由を共有したことで、「今日の目当てが達成できたらポイントシートがもっとよくなりそう」と課題解決の価値を感じていました。

行動【家造りポイントシート・会議】



セネガルの家造りのポイントを見つけた後、単元の始めに考えていた自分の家造りのポイントを「土地の特徴」などの観点で見直し、班で考えを交流しながら、シートをよりよいものにする姿が見られました。

振り返り【きりりタイム】



自分の頑張りを◎○△の3段階で振り返り、「次は、香川の家造りポイントを見つけて、自分の家造りポイントシートをもっとよくしたい」など、次時への意欲を高めている姿が見られました。

授業討議での ご意見・ご指導

○ポイントについて筆者の説明の観点を基に考える活動を繰り返すことで、子供たちが見通しをもって学習活動に参加できていた。始めの考えを再考することで、自分の家造りのポイントについて粘り強く考えていた。
▲教科書の3例だけにとどまらず、もっとたくさんの事例についても考えていく必要があるのではないか。三つの国についての文章を並行して読み、文章全体を捉えていくという読み方も大切ではないか。

各授業の指導案や当日配布資料は
右のQRコードからご覧ください。
期限：令和5年3月31日まで



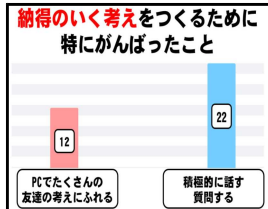
6年国語科 「物語から感じたメッセージを伝え合おう ～『海の命』～」

学習指導者 東 泰右

物語から感じたメッセージをまとめて伝え合うために、中心人物の変容や人物像、印象的な叙述などの、メッセージをまとめる手掛かりを見付けながら、『海の命』を詳しく読んできました。本時では、これまでに書きためてきた手掛かりを基にメッセージをつくり、1人1台端末を使いながらたくさんの友達と考えを交流することで、より納得のいくメッセージにしていきました。

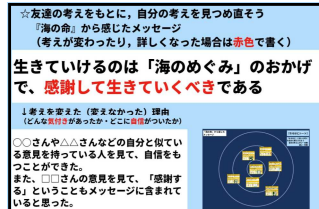
物語から感じたメッセージを伝え合って、納得のいく考えをつくらう

見通し【自分を信じタイム】



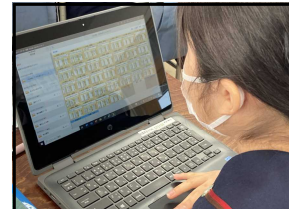
前時の学び方のよさや、それが課題解決につながったことを想起させ、これまでの成功体験を基に、本時、特に頑張りたいことを選び、課題解決に向けて自信を高める姿が見られました。

行動【自分に取り入れタイム】



端末で友達の考えを見たり、直接質問しに行ったりできる時間を設けたことで、複数の友達の考えを基に、粘り強く自分の考えを見つめ直しながら、納得のいくメッセージをつくる姿が見られました。

振り返り【これだけできタイム】



観点を基に、学び方のよさについて振り返る時間を設けたことで、「友達の考えをたくさん見てそれを自分に取り入れたら、納得のいくメッセージができた」などと、自分の成長を感じていました。

授業討議での
ご意見・ご指導

○全員が1人1台端末を文房具のように使いこなせていることに驚いた。考えを書くカードの形式が、叙述を基に考えられるようになっていてよかった。交流によって、メッセージがよりよいものになったことを感じていた。
▲ICT活用のデメリットを意識するべき。端末を介しての間接交流が増えると、相手意識が薄れてしまうため、活動のねらいや教科として身に付けさせたい力を踏まえて、どの場面でどのように活用するかを検討するとよい。

5年社会科 「多くの人に楽しく便利な観光を届ける情報通信技術」

学習指導者 滝井 康隆

昔と今の旅行を比較したり、香川県や有名な観光地における取組等を調べたりする中で、情報通信技術の発達に伴って旅行が便利になり、国内外の観光客数が増加していたことを理解しました。また、新型コロナウイルス感染症の流行による観光客数の激減という問題に対しても、情報及び情報通信技術を活用することで解決しようとしていることを明らかにしていきました。

なぜオンラインツアーに参加する観光客は増えているのだろう

見通し【問いを確認】



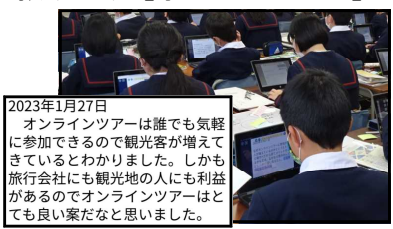
前時に存在を知ったオンラインツアーの参加者数に関する資料を見て疑問を出し合い、「オンラインツアーの参加者が増加している理由は何か」という問いを追究する意欲を高めました。

行動【考え整理ボード】



付箋とホワイトボードを使って各自の考えを話し合い、オンラインツアーのよさを考える場を設定しました。友達と様々な考えを比べたりまとめたりしながら、複数の立場からのよさに気付くことができました。

振り返り【学びのレポート】



本時分かったことをまとめた後、分かった理由や感想、自らの学び方、さらに考えたいことといった観点を沿って本時の学習を振り返らせたことで、学習の成果や自身の成長を捉えられました。

授業討議での
ご意見・ご指導

○アナログとデジタルをうまく使い分けることができていた。付箋とホワイトボードだと、操作性もよいし、視覚情報量もちょうどよい。オンラインツアーという教材は新しく、現代の課題に合致していた。
▲オンラインツアーのよさを考えていく際に、旅行会社、観光地等の立場から考えるのが難しい子供が見られた。本時まで具体的に事例を基に調べて知識を深め、それを活用していくことができればよかった。

各授業の指導案や当日配布資料は
右のQRコードからご覧ください。
期限：令和5年3月31日まで



6年社会科 「世界の人々の命と未来を守る支援 ～現地の人々と共に～」

学習指導者 網野 未来

世界には安全な生活を送れない子供たちがいることを知り、人々の命を守るための国際機関や日本の取組について調べてきました。本時では、水質浄化剤を製造・販売する会社の小田さんが、安心して飲める水の作り方や売り方を現地の人に指導した理由について、二つの立場から考えて話し合い、現地の人の手で続けられるように支援することが大切なことを捉えていきました。

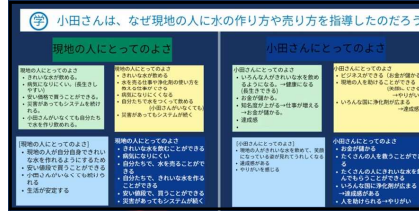
小田さんは、なぜ現地の人に水の作り方や売り方を指導したのだろう

見通し【学びの歴史】



補助黒板を基に、時間とお金をかけてまで指導した理由が分からなかったことを想起させました。小田さんには何か意図があるということ共有し、考えたいという思いを高めていました。

行動【考え発展タイム】



既習の資料を基に考えたことを学習支援アプリ上のカードに表現し、それを操作しながら、班で考えを伝えたり、質問し合ったりする場を設けたことで、各々の立場に多様なよさがあることに気付いていました。

振り返り【自分いいねタイム】



「分かったこと」、「次に考えたいこと」、「思ったこと」の3観点で振り返らせたことで、学びの成果を自覚し、「小田さんのような人はほかにいないのかな」などと新たな疑問を見いだしていました。

○補助黒板の内容が精選されており、前時の内容を本時の問いへとつなげられた。アプリの共有機能を用いることで友達の見解も参考に多様な考えができた。子供が発言をつなぎながら持続性という価値に迫っていった。

▲子供が何を根拠に考え、話し合っていたのかが分かりづらかった。現地の人々の暮らしの変化や企業の利益が分かる資料を効果的に用いることで、互いにとってメリットがあることへの認識がより深まったのではないかな。

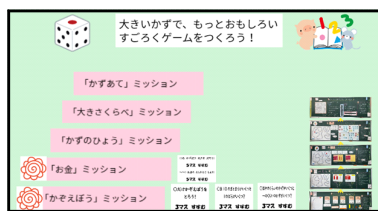
1年算数科 「すごろくゲームを通して、数の世界を広げよう ～大きいかず～」

学習指導者 井下 修一 ・ 支援員 平野 燈

大きい数で、もっと面白いすごろくゲームをつくるために、数の数え方や表し方の問題（ミッション）が含まれたすごろくゲームを行いながら、数について理解を深めてきました。本時では、止まったマスの数が空欄のある100までの数表のどこに入るかを書き、その見付け方を数表のきまりを基に説明する活動を通して、数の系列や順序を捉え、一つの数を多面的に見ていきました。

「数の表」ミッションで、すごろくゲームをしよう

見通し【すごろくマップ】



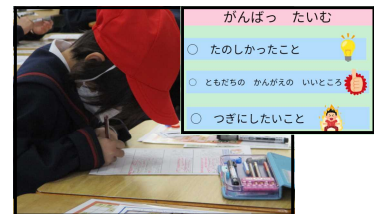
単元のゴールに向けてしたいことを位置付けたすごろくマップを基に、「数の表」ミッションに取り組むことを確認したことで、もっと面白いすごろくゲームをつくらうと、意欲を高めていました。

行動【一緒に学びタイム】



「止まったマスの数を数表の空欄に書けば10マス進む」、「見付け方を説明できれば一人につき1マス進む」のように、すごろくゲームのルールを工夫したことで、多様な答えの見付け方を探る姿が見られました。

振り返り【がんばりタイム】



三つの観点で振り返って印を付け、詳しく書きたいことをワークシートに記述させたことで、一人一人が自分の成長に気付いていました。また、自信を高め、次にしたいことが見付かっていました。

○大きい数の単元にすごろくを取り入れることで、子供が楽しみながら学ぶことができていた。ルール設定により、一つの数を多面的に見て説明しようとしていた。支援が必要な子供も45分間、学びが保障されていた。

▲すごろくゲームを楽しむあまり、説明が不十分なグループが見られた。多様な答えの見付け方に子供たちの意識が向かったため、より速く、より簡単に見付ける方法についても考えさせる問いかけがあったらよかった。

各授業の指導案や当日配布資料は右のQRコードからご覧ください。
期限：令和5年3月31日まで



5年算数科 「データを集めて身の回りの問題を解決しよう ～割合のグラフ～」

学習指導者 矢野 利幸

特別活動で全校生が楽しめる6年生を送る会を企画しようと考えた子供たちは、統計的な問題解決の方法を生かし、全校生がしたい遊びについてのデータを収集し、学年別や男女別など多様な観点でグラフをつくりました。本時は、複数のグラフを分析し、データの特徴や傾向を捉え、どのような遊びにすればよいか考察し、交流を通して自分なりに納得できる結論を出していきました。

複数のグラフを比べて、どんな遊びにしたらよいか考えよう

見通し【やってみタイム】



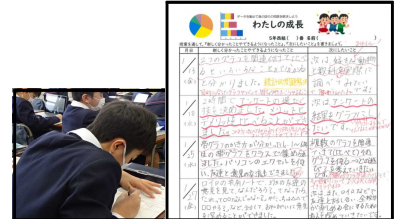
前時の「複数のグラフを比べて、どのような遊びにしたらよいか考えたい」という思いを確認し、その理由をペアで伝え合う場を設けました。一人一人が課題解決の価値を感じられていました。

行動【比べて分析タイム】



複数のグラフを見ながら、どのような遊びがよいかと、その理由を学習支援アプリを用いて交流させました。その後、個々に結論をまとめる場を設定することで、多面的に粘り強く考察する姿が見られました。

振り返り【私の成長】



納得できる結論が得られたことを確認した後、「新しく分かったことやできるようになったこと」、「次にしたいこと」の観点を示し、記述させました。個々に自分の成長したことを捉えていました。

授業討議でのご意見・ご指導

○生活と関連させた単元構成がよかった。学習支援アプリの共有ノートを用いることで、他者の考えをリアルタイムで確認できていた。教師が子供のよい考えを全体に広げること、新たな視点で考察させることができた。
 ▲算数科の学びを実感できるよう、グラフを用いて考えの根拠を説明する場が充実すればよかった。振り返りでは、分かったことやできるようになったことの原因を問うことで、学習方略として価値付けられたのではないかと感じた。

3年理科 「マグネット・フェスティバル ～磁石の性質～」

学習指導者 米谷 直樹

磁石を使って行う魚釣りゲームを通して問いを見だし、「『マグネット・トイ』を作ってフェスティバルを開く」というゴールを設定した子供たちは、磁石に関する課題を解決しながらその性質について捉えていきました。本時は、磁石に付いた鉄は磁石になるのかを確認するために、様々な道具を用いて実験し、「鉄に付くのか」や「極はあるのか」を調べていきました。

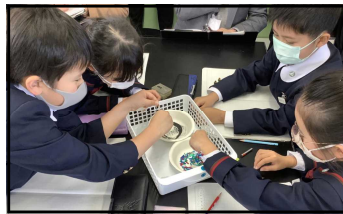
磁石に付いた鉄は磁石になるのだろうか

見通し【マグネット問いボード】



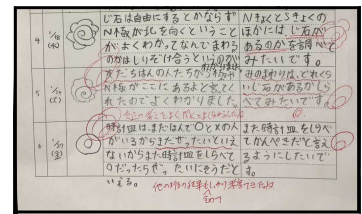
問いボードを使って単元のゴールであるフェスティバルを想起させたり、本時の目的についてペアで対話したりする場を設けたことで、一人一人が課題解決の価値を感じている姿が見られました。

行動【お試し磁石タイム】



マグチップや方位磁針などの多様な実験方法を選択して実験したり、自分が選ばなかった実験の結果についても交流したりしながら考察する場を設けたことで、課題解決に粘り強く取り組む姿が見られました。

振り返り【振りカエルタイム】



「今日の解決度」を4段階で振り返り、「その理由」「次にしたいこと」を記述で答えられるカードを用いました。できたことを想起したり、さらに詳しく知りたいことを見付けたりできました。

授業討議でのご意見・ご指導

○他の方法でもすぐに調べることができるように準備がされており、自由に様々な道具を触りながら考える姿が見られた。振り返りの観点が明確になっていたことで詳しく振り返ることができ、評価もしやすいと感じた。
 ▲ゴールイメージを具体的にもっているのか疑問に感じた。実験方法が分からない子供がいたため、方法を丁寧に確認するか、「鉄に付くのか」「極はあるのか」を別々の時間で調べてもよかったのではないかと感じた。

各授業の指導案や当日配布資料は右のQRコードからご覧ください。
 期限：令和5年3月31日まで



5年理科 「マイ電磁石で釣り上げろ！ ～電流が生み出す力～」

学習指導者 増田 浩一

「狙ったどんな魚でも釣れるマイ電磁石に改良しよう」という単元のゴールに向けて、電磁石と磁石を比べたり、電流の大きさや導線の巻き数などの条件を変えて実験したりしながら、電磁石の性質を捉えていきました。本時では、導線の長さ、太さ、巻き数の条件を変えて実験をし、その結果や考察を交流する活動を通して、電磁石を強くできる方法を捉えました。

どんな導線にすれば、電磁石は強くなるのだろう

見通し【パワーアップボード】



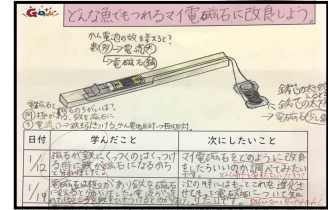
電磁石の改良に向けて、本時の課題や課題設定の理由を問うことで、補助黒板を基に本時の課題とゴールとの関係を捉え、本時の課題解決の価値を感じ、解決への意欲を高める姿が見られました。

行動【改良ヒントタイム】



導線の条件を変えて実験した結果をグラフにまとめ、班での考察を行い、同じ条件、違う条件の班の友達と、結果や考察を進んで交流したことで、様々な考えを取り入れて、自分の考察をより深められていました。

振り返り【つながるシート】



「学んだこと」「次にしたいこと」の2観点で振り返り、「巻き数と乾電池の数を増やしてマイ電磁石を改良したい」など学んだことから、次にしたいことを見付けられていました。

授業討議でのご意見・ご指導

○電磁石を強くしたいという目的が明確で、それぞれが主体的に課題解決しており、振り返りでは、結果が曖昧な条件について再実験をして確かめたいという意識があった。班ごとに結果を透明なシートにまとめ、同じ条件で調べた各班のシートを重ねたことで、条件ごとの電磁石の強さの変わり方が捉えやすかった。

▲電源装置について、電流の大きさをそろえる意識が薄く、正確な実験ができていない班があった。

6年理科 「水溶液は危険だが役に立つ！ ～水溶液の性質とはたらき～」

学習指導者 竹森 大介

本時まで、リトマス紙、BTB溶液、万能試験紙などを用いて5種類の水溶液について性質を調べました。そこから子供たちは、身の回りの水溶液についても液性を調べたいと考え、学習課題を設定しました。本時は、飲み物や洗剤、香水など身の回りの水溶液の性質をBTB溶液、万能試験紙を用いて調べ、それぞれの水溶液が、使う場所や用途によって性質が異なることを捉えていきました。

身の回りの水溶液は、どのように分類できるのだろう

見通し【水溶液役立ちボード&タイム】



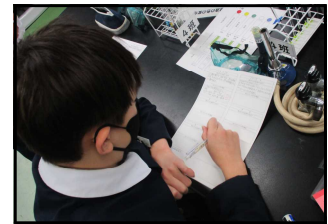
水溶液について学んだことと生活とのつながりを補助黒板に位置付け、本時の学習の意義について問いかけたことで、学びの有用性を感じ、学習課題を解決したいという思いを高めていました。

行動【色々解決タイム】



班によって様々な水溶液の性質をBTB溶液と万能試験紙を使って調べる場と、自由に他の班へ行き話し合える場を設定したことで、目的をもって対話し、複数の結果を基に粘り強く考察する姿が見られました。

振り返り【お役立ちタイム】



「学んだことと生活のつながり」と「次にしたいこととその理由」について記述させました。「洗剤は使う人の体のことをよく考えて作られている」など日常生活とつないだ振り返りが見られました。

授業討議でのご意見・ご指導

○身の回りの水溶液について、複数班が同じ物を調べる場を設定するとともに、試験管や結果のシートなどを色分けして共有しやすくしたことで、他の班の結果や友達の考えを知りたいという思いを高め、進んで他の班へ移動しながら主体的に話し合いができていた。

▲ICTの活用が不十分だった。どの場面でどのように活用するのが有効かを考えておくとよい。

各授業の指導案や当日配布資料は右のQRコードからご覧ください。
期限：令和5年3月31日まで



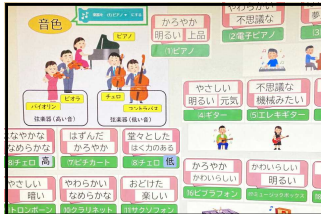
5年音楽科 『かえるの合唱』の変奏をつくろう ～『ます』の鑑賞の学びを生かして～

学習指導者 高塚 仁志

『ます』の鑑賞で、曲想及びその変化と音楽の構造との関わりとの視点で変奏曲のよさを味わった子供たちは、そこで学んだことを生かして『かえるの合唱』の変奏をつくっていきました。本時は、1人1台端末を活用していろいろな変奏方法を何度も試したり、つくった変奏を友達と聴き合ってアドバイスし合ったりすることで、より自分の思いや意図に合った変奏にしていきました。

表したいかえるにもっと合った変奏にしよう

見通し【この技使え『ます』！】



『ます』の鑑賞で学んだことを基にしてまとめた多様な技の中から、表したいかえるに合った変奏にするための方法を自分自身で選択することで、課題解決への見通しをもつことができました。

行動【Scratchで音楽づくり】



「Scratch」で音楽をつくることで、つくった変奏の再生や修正を何度も繰り返したり、友達と聴き合って工夫を取り入れたりするなど、自分の変奏をよりよくしようと粘り強く取り組む姿が見られました。

振り返り【振り返りの合唱シート】

今日表したかえるの様子 それに近づくために使った技	分かったこと・感じたこと 次にしたいこと
南国で海を2人で楽しむカエル 音色（スチールドラム、チェロ、エレキギター） 音の重なり（低い音とたかい音） 強弱（強くなったり弱くなったり）	音色を追加することで、カエルの数を増やす事ができる。友達のを聴いて音の高さを変えたら近づいた。

本時、表したいかえるに近づくために使った技を選択してから、学習を振り返られるようにすることで、音楽を形づくっている要素と関連させながら、自分の頑張りを感じられていました。

授業討議での ご意見・ご指導

○表現と鑑賞の一体化によって、『ます』で鑑賞したことが音楽づくりにうまく生かされていた。1人1台端末の活用によって、器楽の演奏技能という大きな障壁をなくし、一人一人が主体的に音楽づくりに取り組んでいた。
▲全員で共通の視点を設定した上で自分や友達の変奏を吟味させられるとよい。例えば「音色」の要素に焦点化し、「なぜその音色にしたのか」「表したいかえるにもっと近い音色はないか」といった交流ができるとよかった。

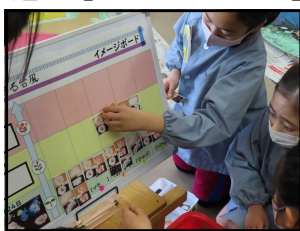
2年図画工作科 「挑戦！とろとろ絵の具ビッグアート」

学習指導者 毛利 二実子 ・ 支援員 内田 珠世

液体粘土と絵の具を混ぜたとろとろ絵の具を使い、指や手のひらで表現することでその感触を味わいました。思いのままに描くことで生まれる形や色を楽しみ、表したいことを見付けてグループで「ビッグアート」のイメージを共有しました。本時では、多様な工夫を試すとともに他のグループの作品を鑑賞し、自分たちの作品に取り入れながらつくり、つくりかえていきました。

とろとろビッグアートに挑戦しよう

見通し【イメージボード】



これまでに見付けた工夫をまとめた「とろとろアートカード」から、本時自分がしたい工夫を選択できるようにすることで子供たちは「自分を信じる力」を発揮し、製作への意欲を高めました。

行動【どんどん見るミリタイム】



多様な工夫を試すことができるように広いスペースを確保したり他のグループのよさを取り入れるための「見るミリポーター」を設定したりすることで、粘り強さを発揮して製作に取り組む姿が見られました。

振り返り【きらりタイム】



上記の三つの観点について、自分ができたと感じている観点にシールを貼ることで自分のよさを感じ、さらに工夫できそうなことを見いだしていました。完成後「見せたい」という思いも高めました。

授業討議での ご意見・ご指導

○子供たちが伸び伸びと思いのままに製作に没頭できるための環境整備がよかった。子供と共有した工夫がアートカードとして可視化され、それを貼ることによって本時の見通しや意欲を高めることにつながっていた。
▲子供たちは自分の製作に夢中になると視野が狭くなりがちである。一度立って見回す場を設けることで違う見方ができた。製作の「終わりどころ」が難しい。ICT機器の記録を活用し、子供たちと吟味する工夫も考えられる。

各授業の指導案や当日配布資料は
右のQRコードからご覧ください。
期限：令和5年3月31日まで



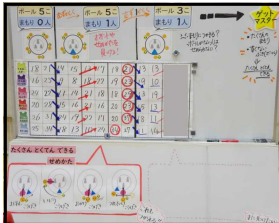
1年体育科 「チャンスを見つけて、モンスターを狙え！ ～ボールゲーム～」

学習指導者 安岐 美佐子 ・ 支援員 内田 珠世

単元を通して、どうすれば的当てゲームでたくさん得点できるか考えていきました。ボールを持った人が守りのいない所へ投げたり移動したりするといった得点できる攻め方を蓄積した子供たちは、さらにゲームの難易度を上げて取り組んでいきました。ボールの数が減った本時では、得点できた攻め方を友達と紹介し合い、ボールを持たないときの動きの大切さに気付いていきました。

三つのボールでもたくさん得点できる攻め方を見付けよう

見通し【ゲットマスターへの道】



ルールと得点の変動を表した補助黒板を基に、ゲームが難しくなって得点が減っても、攻め方を見付ければ得点が増えたことを想起させたことで、解決すべき課題を明確にし、意欲を高めていました。

行動【攻め方選ボード、選びタイム】



前時までに共通理解した得点できた攻め方を蓄積したボードをチームごとに用意しました。攻め方を選んでゲームで試したり、得点できた攻め方に丸を付けて伝え合ったりし、粘り強くゲームに挑戦していました。

振り返り【きらりタイム】



自分ができたこととその理由について、攻め方選ボードやペアでお互いの取組を伝え合ったことを手掛かりにして振り返ることで、自分の取り組み方のよさや成長を感じることができていました。

授業討議での ご意見・ご指導

○守りがいない所がポイントであることを共通理解したことで、それを基に対話が活性化し、ゲーム中にそのポイントを声に出して応援する姿が見られた。それが、粘り強く取り組んでいくことにもつながっていた。
▲振り返りでたくさんのご意見を記述すると、伝え合う時間が確保できない。書くことと話すことのどちらかに重点を置くこともできた。低学年という発達段階を考慮し、情報の精選も行っていく。

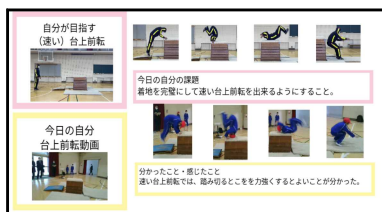
4年体育科 「フワッ クルッ ピタッ 台上前転 ～器械運動～」

学習指導者 藤井 康裕

自分が目指す台上前転（基本・大きい・速い）を選び、助走から着地までを三つの局面に分けて、その台上前転のこつを考えてきました。本時では、技の系統性を示した課題解決系統図や動画を基に自分の課題に合った練習の場を選びました。そして、友達とアドバイスし合ったり、多様な練習方法を試したりしながら、自分が目指す台上前転に近付けていきました。

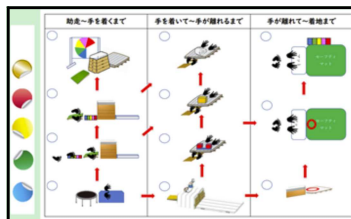
自分の課題にそった練習の場を選んで動きを高めよう

見通し【秘伝の書】



技のこつや自分の台上前転の動画、写真を蓄積した秘伝の書を基に、自分の課題を捉えさせました。自分の技のできばえを客観的に捉え、課題解決の意欲を高めていました。

行動【フル回転タイム】



課題に応じた練習の場を設定し、課題解決系統図を基に、適切な場を選択して繰り返し挑戦できるようにしました。課題解決のために多様な方法で繰り返し練習する姿が見られました。

振り返り【回想タイム】



自分の台上前転の動画を見返しながら、本時できるようになったこととその理由を振り返る場を設定しました。自分の成長を見つめ、目指す動きに近付いたことを実感していました。

授業討議での ご意見・ご指導

○多様な場から選択して練習できることが、子供たちの意欲を高め、何度も練習に取り組む姿が見られた。子供たちが1人1台端末を目的ではなく、課題解決の手段として利用していて、活用法が参考になった。
▲本時、課題に合った練習の場を選んでいる子供が多く見られたが、踏切りに課題がある子供への場をもう少し工夫する必要があった。多様な場があるときには、より安全面に留意しなければならない。

各授業の指導案や当日配布資料は
右のQRコードからご覧ください。
期限：令和5年3月31日まで



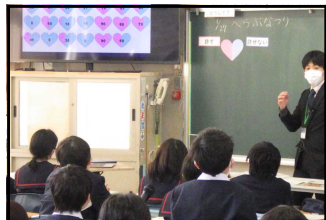
4年道徳科 「広い心で接するために【B相互理解, 寛容】～『へらぶなつり』～」

学習指導者 好井 佑馬

身勝手な行動によって、父の大切なへらうきを無くしてしまった明を父が許せた理由について考えました。明を許せた父と、へらうきを無くすきっかけとなった健二を許せなかった明の気持ちの違いについて考えることを通して、誰かを許すために、相手に思いを向ける大切さを捉えていきました。そして、考えたことを基に、これからの自分の生き方についてまとめていきました。

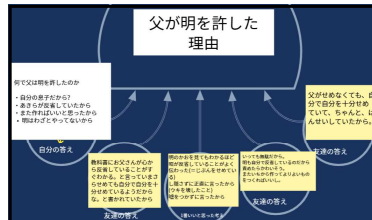
父はどうして明を許せたのだろう

導入【許す心メーター】



一人一人の許す心を表したメーターを一覧表示し、その多様さに気付かせました。そして、父の許せない思いを想像させることで、自分自身の問題として考える意欲を高めていました。

展開【父の許す心チャート】



一人一人が考えた、父が明を許せた理由を学習支援アプリで共有し、自分と違う意見を見をチャートにまとめられるようにしました。自分と違う友達の考えに注目して、多面的・多角的に考えようとしていました。

終末【ハートカード】



「これから相手を許せるようになるにはどうしたらよいか」と「その理由」をハートカードに書き、それを友達と交流する場を設定しました。学んだことを基に自分の生き方を見つめていました。

授業討議での
ご意見・ご指導

○ICT機器を用いた心メーターやチャートが、気持ちの可視化や共有に有効であった。父と明を比較しやすくなる板書や発問によって、許す心には相手を思う気持ちがあることを捉えやすくなった。

▲導入の「許す心メーター」を終末でも意識させることで、自分の変容を捉えやすくなったのではないかと。「これから相手を許すためには」と振り返る視点が狭く、個々の生き方についての考えが出にくくなったのではないかと。

保健室経営 ～自分らしく生きるために～

学習指導者 村上 絢子

一つの型にはまった生き方ではなく、子供一人一人が自分の気質を理解してポジティブに捉え、自らに応じた方法で生きるライフスキルに着目し、指導しました。自分を見つめたり、人とどう共存していくかを考えたりする活動を通し、自分らしく生きる方法を考えました。

ライフスキル学習の推進

【自分に合わないと感じる人との付き合い方】



「この人は自分に合わない」と感じることは決して悪いことではありませんが、合わないからといってそういった人を排除してしまわないように、自分の長所を活用した接し方があることを伝えました。子供たちは、マインドマップを用いて自分の長所を捉え、自分なりの接し方を考えることができました。

【私たちが生きていくためには】



これまで人間が生き残ることができた理由について、「人との関わり」の視点で学び、「人との関わり」は、生きていく上で不可欠なものの一つであることを理解しました。そして、今後大切にしたいことは何か考え、「排除しない」「支え合い」などの大切さに、改めて気付いていました。

討議での
ご意見・ご指導

○子供たち一人一人の表現を大切にしている指導者の声掛けがあったため、子供たちは認められているという安心感を持ち、自分の力を発揮しながら、さらに伸びようとしていた。

▲「苦手な気持ちもあるけれど、そんな人とも仲良くしてみようかな」と考えている子供がいるかもしれない。個別の声掛けなどのフォローを含め、そのような子供の気持ちも大切にすることが必要なのではないかと。

各授業の指導案や当日配布資料は
右のQRコードからご覧ください。
期限：令和5年3月31日まで





文部科学省国際統括官付国際戦略企画官 白井 俊 先生

「OECD Education 2030 プロジェクトが描く教育の未来」

全体講演

学習指導要領で新たに示された資質・能力の三つの柱、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」は、相互に関連し合いながら育成されるものであると述べられているように、「場面や文脈に即して、知識や多様なスキル、態度及び価値観などを統合させながら活用する力（キーコンピテンシー）」が、変化の急速なこれからの社会を生きていく子供たちに大切です。

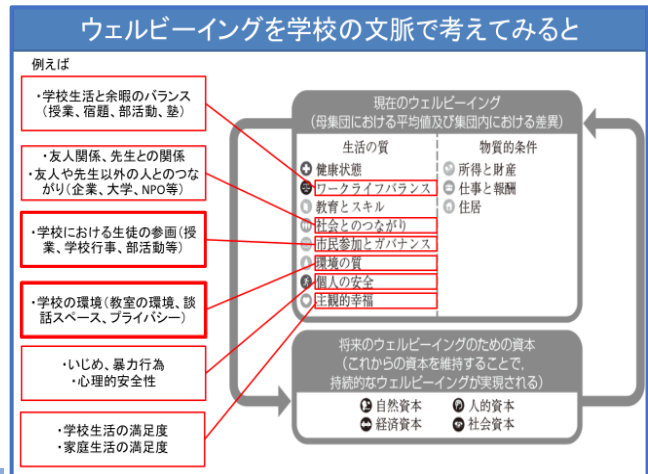


「ラーニングコンパス」

一人一人が心身共に幸せな状態「ウェルビーイング」を実現していくために必要だと考えられたのが「ラーニングコンパス」です。自分もつ知識やスキル、態度や価値観を組み合わせることで、「新たな価値を創造する力」「責任ある行動をとる力」「対立やジレンマに対処する力」の三つのコンピテンシーを発揮することができ、自分にとっても他者にとっても「ウェルビーイング」が実現していきます。

学校での「ウェルビーイング」を目指して

学校における「ウェルビーイング」を考えていく際の視点の一例として「学校における生徒の参画」,つまり子供たちが学校において、意思決定にどれだけ参画できているか、という点があります。教師が授業の中で、子供の思いに沿ってもう少し対話の時間をとる、学校行事において、運動会の種目を子供たちで決めさせるなど、一定程度の参画を保障しようと考えすることで、学校における「ウェルビーイング」に近づいていくのではないのでしょうか。



「エージェンシー」

「ウェルビーイング」を目指して、子供が「ラーニングコンパス」を用いる際に必要になってくるのが、「変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力（エージェンシー）」です。しかし、実際の子供たちは自分で行動を起こし、問題を解決しようとしているのでしょうか。子供が学校のルールは変えられないという思い込みや諦めをもってしまうと、授業や学校生活の様々な活動に対して受動的になってしまう危険があります。エージェンシーを育てるための一番のポイントは、まずは先生や周囲の力を借りながら、問題意識をもつことです。また、学習の進め方についても選択肢がいくつか用意され、子供がそれを選びながら学習できる場面があることで参画意識を高め、エージェンシーを育むことにつながります。

参会者からの声

非認知能力に焦点を当てた本校の研究について、教育研究発表会にご参会いただいた皆様から貴重なご意見を賜ることができました。以下に、その一部を紹介させていただきます。



○研究の概要、具体的方策について

授業研究として取り組むことが容易ではない課題を主題に位置付けたところに提案性を見いだせます。

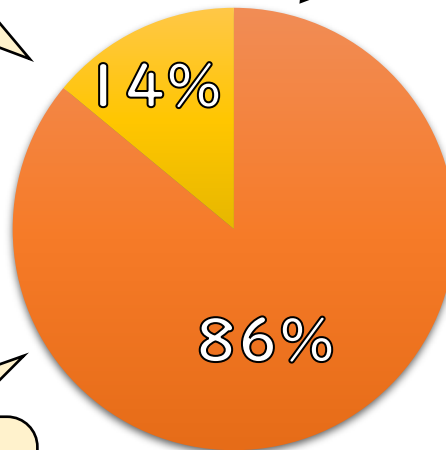
研究主題の「自ら伸び続ける子供」や副主題の「さ・ぬ・き力」は、今、求められている価値観や時代の流れに合致していると思われました。

非認知能力は、表出していなくても発揮していることがあるという視点が参考になりました。

非認知能力を「さ・ぬ・き力」と非常に分かりやすく分類しており、どんな子供を育てていきたいのかが明確になっていました。公立校でもこのような視点を取り入れることにチャレンジしやすくなると感じました。

本校も非認知能力を研究しており、価値付けや授業実践、環境づくり等が大変参考となりました。

価値付けというと、教師がその行為の値打ちを決めるようなイメージがあるので、子供が学び続けていくには意味付けによって自覚化させることも大切だと考えています。



- 参考になった
- まあ参考になった
- あまり参考にならなかった
- 参考にならなかった

○研究授業・実践提案について



非認知能力に関する研究内容が、授業の中にも明確に位置付けていました。

これからの社会を生き抜くために必要な力である、非認知能力を育てるための授業を提案していただき、感謝します。



「さ・ぬ・き力」を意識した声掛けをすることや、その子に見られた変容を伝えることを取り入れたいと思います。

○運営等について

先生方の授業がすばらしかったことはもちろん、PTAの方々の心遣い、実習生の真面目さなど細部にまで意思疎通が図られており、大変気持ちよく参加させていただきました。



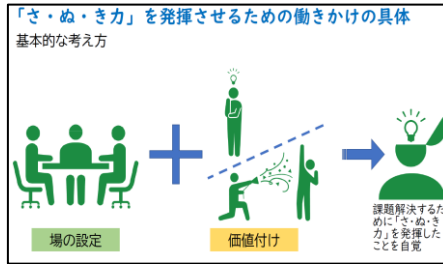
アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。皆様からいただいた貴重なご意見を今後の研究に生かして参ります。

わくわく 授業づくりワークショップ

本年度は、対面とオンラインを併用しながら、年間5回のワークショップを実施いたしました。全国から延べ189名の参加申込をいただきました。学校関係者のみならず、民間企業や各種団体、教職を目指す学生など様々な方と子供がときめく学びのつくり方について一緒に考えることができました。

「さ・ぬ・き力（非認知能力）を育てる環境づくりについて」part 1

学校で発揮される非認知能力やその育成の仕方について、本校の坂井校長と、香川大学教育学部准教授の岡田涼先生と共に話し合いました。オンラインでの実施でしたが、参加者の方々ともチャット等で意見交換を行い、「学校において、どのような非認知能力を伸ばすことができるのか」「非認知能力を育成するために大切なことは何か」について、じっくりと考える機会となりました。

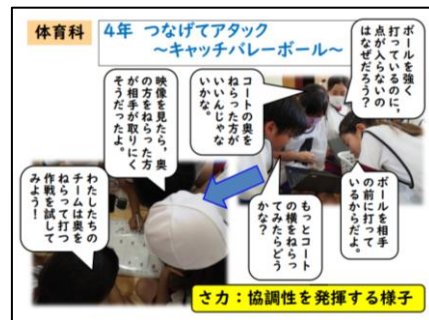


参加者の声

非認知能力という子供を見る新しい視点を学ぶことができました。忍耐力や社交性、協調性など、テストでは測れない力を教師がしっかりと見取ることが子供の成長につながると思いました。こういった具体的な姿を授業の中でどのように子供たちから引き出せるかを考えて授業をつくりたいと思いました。

「さ・ぬ・き力（非認知能力）を育てる環境づくりについて」part 2

本校での実践例を挙げながら、各教科の授業の中で非認知能力を發揮させる働きかけを紹介し、どのような働きかけが有効であるかを一緒に考えていきました。ワークショップの後半では、広島大学大学院人間社会科学研究科准教授の深谷達史先生より、非認知能力を指導する際の留意点について、オンラインでご講演をいただきました。本校の実践を価値付けてくださったり、質問に答えてくださったりして、有意義な時間を過ごすことができました。



学習方略の指導

- ・指導における5つのポイント（深谷，2022）
 - ① 学習方略を可視化する
 - ② 学習方略の有効性を実感させる
 - ③ 学習方略を評価し、ふりかえらせる
 - ④ 学習方略の質を高める
 - ⑤ 学習方略を応用する機会を設ける

参加者の声

みんなが安心して自分の思いや考えをもち、それを伝えるための様々な支援が参考になりました。また、多くの学校でこの支援を日々当たり前に行えるようになるためには、教師がどんなことを意識するとよいかを考えたいです。教師も子供もわくわくできていることが、一番いいなと思いました。



教科等

国語科 「言語活動の設定や単元づくりについて」

②言語活動の設定

- ① 子供たちが学ぶ目的や意義、楽しさを実感できるもの
- 誰に紹介するか(友達、他学年、家族 など)
→「伝えたい」と思う相手になっているか
- どんな内容か
→「楽しそう・やってみたい・作りたい」と思える内容になっているか
→子供の発達段階に合っているか



言語活動を設定する時は、子供が学ぶ目的や意義、楽しさを実感できるものか、付けたい力を育成するための過程にあるものかを考えながら設定したらよいことが分かりました。指導要領をしっかりと読むことの大切さに気付きました。子供に付けたい力を意識した授業づくりを心がけたいです。

社会科 「中学年の地域教材の収集や加工について」

ポイント3 子供の実態、学習方法によって資料を加工

データ	加工	加工した資料
グラフ		〇〇グラフ化
写真		一部を隠す、アニメーション入り
年表、地図		トリミング、キャプションを付ける
〇〇さんの話		必要な情報のみに編集したもの
動画		短く内容を精選
		長さの調整、字幕入り



社会科の学習で、子供たちの興味・関心を引くために資料提示をどうすればよいか、悩んでいたところでした。今回、基礎にある学習指導要領に立ち返り、一緒に道筋を考えることができ、子供たちを引き付けることができる流れというものを見いだせたように思います。

算数科 「子供が学びを深める問いづくりについて」

② 子供が問いをもつためには

先生方なら、ア〜ウのどれを選びますか？

0.6mの重さが5.2kgの金属の棒があります。この棒1m分の重さは何kgですか。

どの位で何が数は何？

ア 〇の位まで 約0.9kg

イ 1/10の位まで 約0.7kg

ウ 1/100の位まで 約0.6kg



子供の「？」を核にして授業を組み立てることが大切だと感じました。どの子にも学びがあり、それを見付けることで、どの子にも楽しい算数の授業になると思えました。技能の向上に重きを置いてきましたが、子供のよさを見付ける手立てが大切だと教えていただきました。

理科 「子供が夢中になって取り組める教材・教具について」

コイル-導線を巻いたもの、電磁石-コイルに鉄芯を入れ、電流を流したものを、マイ電磁石を作ってみよう。

使うもの

- ・アクリル板(縦50cm、横20cm)に切れ、上部に穴をあけて、少し熱で曲げたもの
- ・ボーン棒(マジックナイフ) 導線(太さ0.4mm)
- ・電池スチロール(縦横5cm) ゼニールテープ

導線の巻き数は10回にそろえよう。

ペアで協力して作るよ。条件をそろえるために、導線の長さをそろえよう。

余った導線は切らずに、電池スチロールに巻き付けよう。

マイ電磁石の完成。

磁石の性質と比べると、どんな違いがあるのか、マイ電磁石を使って調べたい。



工夫された教具や子供たちの意欲付けのための導入の仕方など、「楽しさ」をより追究した分かりやすい内容で大変勉強になりました。単元内の時間が限られている中ですが、自分にできる形で準備して、子供たちの意欲の向上につながるような教材・教具を意識したいです。

音楽科 「学びと楽しさを両立した活動について」



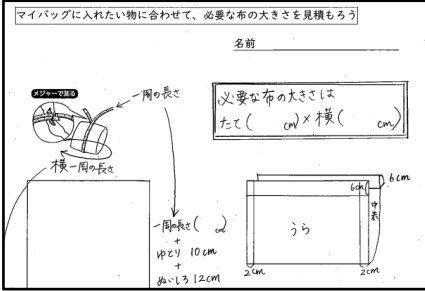
「ふじ山」を歌う時には曲の山場の歌い方について考えさせ、子供の思いや意図を膨らませられるようにしたらよいと分かりました。1人1台端末を使うことで、楽器の演奏技術に左右されずに、一人一人が自由な発想で音楽づくりをすることができてとてもいいなと思いました。

図画工作科 「教材づくりや作品の鑑賞について」



いろいろ試せて面白かったです。楽しむ気持ちや思い切ったことにチャレンジする気持ちが大切だと思います。作業中、「いいね」「面白いね」という先生の声掛けがうれしかったです。きっと子供たちもそうなんだろうと感じ、改めてこれから声掛けを授業でも大切にしたいと思います。

家庭科 「ミシンを使っての制作について」



トートバッグの出し入れ口の三つ折りは子供にとっては難しいことが分かりました。先に三つ折り縫いをしてから、わきを縫う方法もいいと思いました。授業前の準備が大変ですが、準備をしっかりしておけば、授業で子供たちが困ることが少なくなりそうだと感じました。

体育科 「単元構成や教材・教具について」



クラスの運動が苦手な子供も学習内容を身に付けることができるように、守りの動ける範囲を制限してみようと思います。低学年のゲームは、単元の始めは鬼無しで、十分に得点する楽しさを味わってから鬼を増やしていくとよいことを教えていただきました。授業で取り入れたいです。

道徳科 「授業のねらいとなる道徳的価値分析と発問について」

内容項目「親切、思いやり」とは？

学習指導要領から「親切」や「思いやり」について考えたことをどんどん書き出してみましょう。

どの学年の言葉を見ても、心の面と、親切という行動の面が書いてあるなと思いました。「自ら進んで」という観点に加わっているこちらが思うことを一方的ではなく、相手のことを考えることの意味困難に直面したときにどう立ち振る舞うか相手の立場を考え、行動することが大切。相手意識が自分からどんどん遠いところまで広がっていている。相手に対する思いやり、相手の立場に立った行動することが大切

展開 「小鳥は風を見ながら何を考えていたのだろう。」

【二つの立場から考える】

行く側
→ウカするかも...
大変だな...明日でも...

行く
→彼が行かないとこ敵が...
りまさんに何かあったら...
困っているかも...とどけてあげたい

よいと分かっても行動に起こすことの難しさ
自分のことより相手のことを大切にしている小鳥の心情

道徳科の授業づくりで大切にすべきポイントや、取り上げる内容項目について、押さえないことを教師がしっかりともの大切さが分かりました。実際の授業の具体が聞けたり、授業と一緒に考えたりすることができ、来週からの道徳科の授業に生かしていきたいと思っています。

保健室経営 「コミュニケーションスキルの育て方について」



リフレーミングをやってみましょう♪

ワンポイント

①短所を考える。
②だからこそ、できたことは？
⇒
③つまり...

自分らしく生きる力であるライフスキルや、リフレーミングの方法について考えるとき、子供の思考の発達段階を考慮することの必要性を学びました。小学生の頃から、自分の長所と向き合うスキルを身に付けることはとても大切であり、将来につながると実感しました。

■ 本年度の研究を振り返って

本年度は、子供たちが「さ・ぬ・き力」を発揮しながら課題を解決していく姿を目指して研究を進めて参りました。その中で、全校の90%以上の子供たちが「困ったときに、工夫して解決しようとしている」と自覚するようになり、様々な場面で自ら問題を見だし協働しながら粘り強く学習に取り組む姿が見られるようになりました。その背景には、「子供たちは何らかの力を発揮している」という前提に立って子供に寄り添い、称賛・共感する価値付けによって「さ・ぬ・き力」の発揮が課題解決につながったことを子供たちに伝えてきたことが効果的であったと考えています。

そして、教育研究発表会では、「自ら伸び続ける子供」の姿として、例えば、社交性を発揮しながら友達と考えを積極的に伝え合ったり、粘り強さを発揮しながら様々な方法を使って自分の考えをつくったりする子供たちをご覧いただけたのではないかと思います。授業討議や付箋、アンケート等によって多くのご意見をいただくことができました。ありがとうございました。



■ 今後の研究の方向性

- ・ 各教科等の学びの中で、これからの時代に変化を起こすために必要な資質・能力を育成する授業づくりを行う。
- ・ 子供たちの学びに向かう力を高めていくために有効な働きかけを見いだす。

あ と が き

教 頭 たなか あすか
田中 明日香

本年度は、「自ら伸び続ける子供の育成（2年次）」を研究主題とし、非認知能力に焦点を当て、子供一人一人の気質に配慮した授業づくりを行って参りました。参集での教育研究発表会は4年ぶりということで、手探りの中での準備・運営となりました。開催に際して、たくさんの方々から温かいご支援や叱咤激励をいただき、職員が一丸となって研究発表会のために邁進することができました。本当にありがとうございました。また、参会いただいた県内外の関係諸機関の皆様には、様々な立場から貴重なご意見をいただけたこと、職員一同心より感謝しております。

次年度は、いただいたご意見を基に研究を深め、日常の研究授業及び討議を公開したり、授業づくりワークショップを開催したりして、さらに公立校に貢献できる研究を目指して参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

編 集 委 員

竹森 大介 滝井 康隆
米谷 直樹 好井 佑馬
岡根 平 東 泰右

令和5年3月15日

香川大学教育学部附属坂出小学校

〒762-0031 香川県坂出市文京町二丁目4番2号

TEL:0877-46-2692 FAX:0877-46-5218

E-mail:sakaide@kagawa-u.ac.jp



【本校HP】

過去の指導案や研究の歩みをご覧いただけます。